

編

五二三

受信二一七〇五

了二二二五

電一一〇六四

航作本

第十信評

東 道・四 聯合艦隊

機密第二三一四〇五管電

通報 G P司令長官 軍令部次長 海軍次官 航本部長 南東方面

空廠長

MYB 信電令作第二號

一 内南洋部隊指揮官ハ九〇二空申適宜ノ人員一四P 機密第二〇一四

〇三番艦ニ依ル員數標準ニテ以テP B 方面派遣隊ヲ編成P B 方面

ニ派遣スベシ 機密令件ハ指揮官所定

三 右派遣隊サP B 方面到着日時ヲ以テ「マリアナ」方面防備部隊指揮官

通一四五四九

呂三A(一六七五五)五通

海

軍

352

擧官ノ作戦指揮下ニ入ラシム
三ノマリアナ一方面陸海軍指揮官ハ右派遣隊ノ練成ヲモ實施スベ
シ。

第十信線

海軍

353

局長

司員



印
信
十
部
録

新
展

五二四
受借一〇三五八

丁二〇四五 第一一四一四 作

八五一一 航空 隊

東

通
聯合艦隊口・二八
二十四機隊地隊・二十三

機密第二四一〇五三番電

通報 大艦隊一部・隊北部隊、東印部隊指揮官所在艦所・第二十一

特別根據地隊司令官

M B 電令作第三四號

八五一部隊ハ成ルベク速ニM B 命令作第六號ニ依ル「ハ」偵察ヲ
實施スベシ。

通一五〇二八 呂ニA B B ナ一八九五〇〇〇二二通 海 軍

354

五三〇

三〇日〇三〇〇 P O 發 P T 經由 P S T 歸投

向本偵察ニ於テハ P X 方面 (R Y Q) ヲ含ムトノ基點通信ハ一切行

ハズ

予第一五一部隊 O B O K U 偵察 (指揮官 菅原)

(1) 〇日偵察

二十七日一二〇〇 P T 發一六一五 R R 銀行場發 二十八日〇三一

五 R R 發 O B 偵察後 P T 歸投

(2) O K U 偵察

二十七日一〇三〇 P T 發一六〇〇 R R 發 二十八日〇二三〇

R U 發 O K U 偵察後 Q B V 經由一六三〇 R R 發 二十九日〇四

〇〇 R R 發 P T 歸投

予 O J P 偵察ハ改メテ第一五一部隊ニテ實施ス。

五三〇

358

海軍

一、以上（ピアタ）及一部ヲヌンホルへ進出ノ豫定

（一）五艘「二四五名（合通信隊ノ一部）一・四・〇・〇 一兩日間
歸進出途中「島根丸」四二名・〇・二・一・一以上マノタワリニ

配備

三、舟艇ニ依り進出豫定（一六戦隊艦隊第一回分）

（一）第一次約三五〇名山嶺二無敵兵器一 二十一日ソロン後（兼二十
五日マノタワリ着）

（二）第二次四〇〇山嶺一聯隊砲連射砲各一
嶺（二十一日ソロン後二十七日マノタワリ着）

三、其ノ他ノ兵力進出（一六戦隊第二回分陽山丸文山丸及艦隊未定ノ分
）ヲ加へ左ノ通配船ノ豫定

（一）「ピアタ」六月上旬一大隊増強（計四箇大隊）
（二）「ヌンホル」六月下旬一箇大隊増強（現在航空基地關係人員一箇

第十部

海軍

358

中隊程度

同ノマノタワリハ六月上旬一大隊次ヲ一箇大隊(附三大隊但シ

モタリヲ含ム)

同ノソロンニ三箇大隊ノ豫定(内半箇大隊程度)ヲソムルハツタシ

ニ附近ニ設置)

東通陸 本團一八番機隊機密第三四二三四三番電三分ノ三作威營)

部
十
部

海
軍

359

人事

五二七

受領 〇〇一四九三

丁〇二四〇

第一二三七五

作

聯合艦隊口

大海軍一部・南西方面艦隊口

機密第二五一五二七番電

登 第一機動艦隊參謀長

速吸日邦丸ノ損傷雄川丸ノ沈没ニモ機動艦隊補給能力増強ノ爲内報ノ連絡油給至急増壓ノ上當地ニ同航方取計ハレ度
尙右同航時ノ緩衝ニ關シテモ然ルベク御配慮ヲ得度。

通一六四七五

呂三A(五九〇五)(二十一通)

海軍

360

0326

海軍中ノ要職並兼空軍團長員約四九〇〇名第四艦隊附屬ナルトコト
其ノ内容所屬通稱ヲ得度

海軍

②

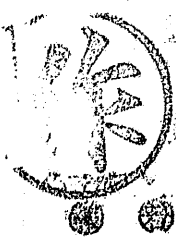
362

人事

五二六 受信 〇七三〇七 了〇八三〇 電一三七二九 作

東 通・聯合艦隊口・二十一通

機密第二五二一一三番電 二分ノ二



發 四RF參謀長

(ハ) RFR 及「TFS」ヨリ「TFD」FL舟艇輸送二八根機密第二

四二二四三番電ノ通

四今後ノ進出計畫

(イ) 在「ワシレ」殘兵力一五〇〇名ハ陸軍所屬船ヲ以テ「TFB」ニ
輸送ヘ狀況ニ依リ「TFS」~~ヲ~~「TFD」突入ヘ以機海上トラツ
夕機帆船ヲ以テ「TFD」ニ輸送

通一五九四五 呂二A(五九〇五K)二十一通 海 電

川村、山田(竹内)

(四) 特設輸送艇來増セバ右輸送ニ協力護衛艦艇ヲ以テスル輸送ハ情況ニ依リ實施ノ線定。

〔東通註 不明箇所問合中ナルモ一先ヅ配布 二分ノ一既配布〕

第十頁

海軍

364

五二六
受信
始信
〇〇一八
〇五〇〇
了
〇六三〇
電二六〇二
作

東京通信隊・聯合通信隊
機密第二五二二二三番電 二分ノ一

機密第二五二二二三番電 二分ノ一

發 第四南遣艦隊參謀長

兼信者 大本營海軍部參謀部第一部長 聯合艦隊參謀長 南西方面艦隊參謀長

東兵團總地區進出情況及進出計畫左ノ通

一「D P D」進出完了兵力數二十八〇機密第二三〇四〇番電ノ通

ナリ
二「D X B」進出完了兵力數十六戰隊機密第二四一五五五番電ノ通ナリ

三進出中兵力

(1) 關山丸二六〇〇名五月二十六日「D P B」着ノ豫定

(2) 帆風及第二十六驅潛艇約九〇〇名文山丸三三〇〇名五月二十七日「

D P D」着ノ豫定ナリ。

一電檢録註 本電其ノ二未着

通一五九四八 因二A 一五九〇五K 廿一通 海軍

子勇
第拾課
田

365

人事

五二六

受信開始 〇〇五〇五

丁〇一三五

電一二三七四

作

各 監

隊

二 空 襲

部 隊

作

機

機密第二六二〇〇一番電

一五一空陸偵一機發動機故障換装ヲ要スルニ付二A B機密第二五一
二二三番電ニ依ル挺身偵察實施要領中第三項(4)項 B 偵察要領ヲ左
ノ如ク變更ス

二十九日一二〇〇PT發一六一五RR第二飛行場着三十日〇三一五
RR發OB偵察後PT歸投。

連一六四〇四 呂二A (四四九七五) KC (四連)

海軍

王勇

赤堀

若新

第十師團

366

人



五二七

受信一七四三〇

丁一九〇〇 電一二六八六 作

一機動艦隊

大海合一部・南西方面艦隊F・二南遣艦隊F・一〇通信隊

機密第二七一三三番電

發 ○ F 艦隊長

通報 第一南遣艦隊長官藤原 昭南地方運輸部長

一 F D F 機密第二五一五二七番電機聯

旭邦丸 良榮丸ハ G F 電令作第八〇號ニ依リ一 F D F ノ指揮ヲ受ク

ル如ク電令セラレアリ 尙兩船トモ五月二十五日 B B 薩良榮丸ハ五月

二十九日旭邦丸ハ六月六日(修理ノ爲遅延) B B 二向ク B B 盤ノ機

能ナル處之ガ段續ニ開シテハ南西方面艦隊トモ緊密ニ連絡萬全ヲ期

展一六七四三

展三A(日)展

海

368

人

五
二
八
七

受
了
始
信

〇〇二
六五一
三二一
〇三八

電一
二八四三

二
十
四
通

作

聯合艦隊司令部・東通・二十一通
一機動艦隊、一航空艦隊、中部太平洋方面艦隊各一

機密第二七一六五八番電

發 第四南進艦隊長官

宛 南西方面艦隊長官・軍令部長

本二十七日朝來敵ノ一ビアタハ島嶼艦隊ノ兵力ニ鑑ミ之ヲ抑振撃敵
ヲ阻ルコトハ各領艦隊被敵勢洩弱ノ好機ヲ望ムルモ他方作戦ノ爲之ヲ忌
ブノ已ムナキ情況ニ際シ此ノ威力偵察ニ別機ヲ取ルニテハ敵艦送船回
ノ進入モ必定ナルベク之ヲ海上艦隊ヲ同機防備ヲ完クシ得ル唯一ノ

通一六九二六

三二A三二二(三九〇五部)廿二通

馬

357

方鏡ナルニ經り同島ノ戰略的地位ト大飛行場群並成容易ナル地形地質
 トチ併セ考へ此ノ際敵運送船團ノミハ高麗ヲ掛シ之ガ捕獲要領ヲ決行
 セラレシコトヲ知望ス。

第十卷

海

軍

370

人事

五二八 受信 〇〇五四五 譯了 〇六二〇 電 一三八四〇

第一機動艦隊

中部太平洋方面艦隊 三〇根
第一航空艦隊 第六一航空艦隊

機密第二七二一四六番電

發 G P 參謀長

貴機密第二六二一三五番電返

一 A 飛行機隊展開完了時期後進偵察隊ノ敵情偵察ノ結果ヲ待テ率
制部隊進出ヲ決定致度處目下 T O P 方面ノ情況ニ鑑ミ進出困難トナル
虞アルニ付洲崎 興川丸ノ燃料ハ一先ツ陸揚シ B B 二機航再搭載ノコ
トニ取計ハレ度。

通一七〇九〇 呂四 A (B) 吳

海

371

人事

田中

長瀬

石川

王勇

各務

末持

第十師團

五二八

受信開始 〇〇八五〇〇

譯了 一〇三〇

電 一二九三

作

作

各艦隊戸

機密第二八〇七一六番電

ポートアレア航空基地

各島

作

ニAB機密第二五一二二三番電ニ依ル第一二一部隊PXN・PQ

偵察行動日程一日宛線下グへ兩機共機材不良箇所アリ本日中ニ整備ヲ要スルニ付

通一七九六九

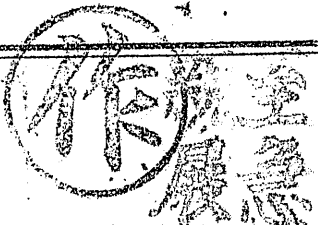
呂二A(一七九九〇KG)四通放

海

軍

372

人事



王急 五二八 受信 一三三〇 丁一三一〇 電二二九七五 作・水陸

● 海上護衛總司令部

● 軍務局・大海軍一部・海軍公署・支那方面艦隊司令部・二連支隊司令部

● 機密第二八〇九〇〇番

高島道雄 海軍少将

六月月中旬馬公根據地跡ヲシテ在ニ依リ台灣海峽機雷艇延伸施設及

接衝施設置キ實施セシメラル

(北緯二三、五六東經一一八、二〇ヨリ北緯二四、〇三東經一一

八、一四迄四四八個

(北緯二四、〇四東經一一八、一〇ヨリ二九〇度方向一一二個

(北緯二三、一六東經一一八、三八ヨリ〇度方向一一二個何レ

共九三六個機雷所敷計七八四個全部馬公根據地ノ下ニシテ敷置ス。

第一七三三四 目二A(一三五三〇) 海軍

373

保スルヲ要ス
 二 同方面ニ於テハ 裝備復弱 陸海軍
 部隊及基地施設 充分ナク 航空部
 隊ヲ以テ 敵ノ優勢ヲ 露速ニ 見ントスルガ
 如キハ 決河ノ水ヲ 柳ヲ以テ 防カントスルニ 同ジ
 敵攻略ニ對シテハ 地帯固ラザルニ 集ジンテ
 專攻スルヲ 最上ノ 戰術トス 戰術ハ 今ナリ
 手ハ 一ツノミ 有カレバ 水上部隊 (空母ヲ
 含む) 以テ 陸上 航空 部隊ト 呼應シ
 速ニ 先ヅ 敵ノ 水上 部隊ヲ 專攻シ 然ル
 後 敵ノ 陸上 部隊ヲ 專攻セザルニ 大
 洋作戦ハ 敵ノ 主力ヲ 誘出シ 之ヲ 捕捉
 戰術ニ 依リ 會合ヲ 作爲スル 算ヲ 考ヘ 維

海軍

第十信 課

376

空機一對、水上艦艇、海軍力ナリト考ル
 ハ、南洋方面ヲ要ス、又、耳下、T、A、方面
 彼我別、空機ハ半々ニシテ水上艦艇
 行新、余地多分ナリ
 四、当部隊四散、尙且、赤痢流行、福
 々、サレ、ツ、ア、リ、ト、虽、モ、青、葉、鬼、怒、葉
 ナ、九、鬼、逐、隊、ハ、戦、才、即、度、差、支
 ナ、シ、T、A、方面、ヨ、リ、攻、撃、ノ、実、行
 施、ハ、当、部、隊、ヲ、以、テ、最、敵、ト、見、考、ル
 ナ、リ

三六六ニアリ知甲此方

通

尾

第十信課

海軍

377

傍

五二八

二二五七
二三五五

二九

丁〇〇二〇

電二三一七八

作

辰

各 監 察 戸

機密第二八一八五三番電

一五一空隊偵一機整備未了 二AB機密第二五一一二二三番電ニ依ル

○^B偵察日程一日宛繰下夕。

第一七五六四

第二A

一四四九五〇一四放

海

軍

工勇

本

寺井

378

30

五

二九

三〇

了始信

一二〇〇

一〇〇六

三一五〇

電

一一三三

五五七

一九六一

作



● 聯合艦隊司令部・中部太平洋方面艦隊・二空襲部隊・五基地航空部隊
 ● 大海參一部・航本總務部・四艦隊司令部・三空襲部隊・機

● 竹島航空基地

機密第二九〇六四〇番電 三分ノ二二三

發 二五一空司令

戰訓所見

我が攻撃圈内ニ於テ攻略作戰準備中ノ敵艦艇ヲ目過シ攻撃セザル爲失
 敗ヲ繰返シ來レル昨年以來ノ戰例ニ鑑ミ敵海上機動攻略部隊ニ對シテ
 ハ其ノ發セザル前ニ之ヲ擊滅スルヲ最良ト認ム艦艇ノ鏡技ニ等シク動
 カザル飛行機ハ動キツツアル艦艇ヨリモ遅キ爲ニ時機ヲ失スルコト多
 シ即チ動ケル飛行機ヲ以テ動カザルニ對應以テ敵ノ作戰行動ヲ其ノ

通一八〇六一八〇三六

呂二島(八九九五北)四放送

海

軍

第十信原

379

發セザル前ニ完封スベキナリ

敵ヲシテ據點ヲ占得セシメシカ「ブーゲンビル」島沖航空戰及「マールカス」岬擊滅戰ニ於ケル大戦果ヲ以テスルモ其ノ作戰目的ヲ阻止シ得ザリシヲ想起銘肝スベキナリ

爾來敵ハ犧牲戰法ヲ以テ作戰目的ヲ達成シツツアリ敵ヲシテ作戰目的ヲ達成セシムレバ如何ナル大戦果モ物ノ數ナラズ

即敵ノ手ニ甘甘ト乗ルガ如キ戰法ハ必敗戰法ト稱シテ可ナリ關亡ブレバ山河殘ルモ戦果ハ殘ルコトナシ

適切ナル兵力配備及用兵ノ妙ヲ發揮シ敵艦船舟艇等^ハ其ノ上陸用ヲ擊滅セヨ然レバ之ガ爲我ガ飛行機所要ノ防空兵力ノ外皆無ニ毀スルコトアルトモ領土ノ護ハ嚴然トシ得ベシ。

第十卷

海軍

380

人事

第 五 三 〇

受了始價
〇〇〇四三〇
七六二四三〇
〇九〇

電一三七八七

作



成部隊(南方軍)・製軍司令部(二方面)二三機ノ下隊連隊
南西方面機隊司令部・第三南連隊司令部・第四南連隊司令部・三三機



機衛第二九二三五一番電

聯合艦隊參謀長

南方軍總參謀長・第二方面軍參謀長

三月十日及陸軍參謀長ハ三十一日ト豫定シテ同族關係保有揚陸材料(小
機)及陸軍ノ多敷ノ折騰ヲ要スルニ關シテハ速ニ關係部隊ニ連絡手配シ
陸軍ノ要スルモノニ關シテハ速ニ關係部隊ニ連絡手配シ

通一八三四一

昌二Aヲ六(B)〇海

第 十 倍 録

382

人事

五三〇 受 始 一二四七 了 一三二〇 電 一三八二五 作

符

高 雄 警 備 部 隊

大 海 參 一 部 ・ 海 上 護 衛 隊 中 ・ 一 海 上 護 衛 隊 中 ・ 第 三 南 道 護 衛 隊 中

機 密 第 三 〇 〇 九 三 一 番 電

高 雄 電 令 作 第 二 二 三 號

一、第八號丸ヲ東岸方面防備部隊ヨリ除キ海面防備部隊ニ加フ

二、馬公根拠地隊司令官ハ東岸方面防備部隊ヲ併セ指揮スベシ

三、海面防備部隊指揮官ハ第四十五掃海隊ノ二隻及臨時務艇一隻ヲ以テ「バスコ」方面防備部隊ヲ編制シ準備出來次第「バタン」島ニ派遣ルゾ

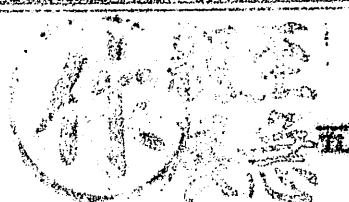
四、馬公方面防備部隊指揮官ハ臨時務艇一隻ヲ派遣海面防備部隊指揮官ノ指揮ヲ受ケシムベシ

呂一A 一三三二〇〇 高雄 海 軍

第十師團

388

人事



五

三〇



了始信

了始信

二一
二四
〇五
六二

東 通・聯合艦隊

一四四
一四五
〇四五
四七〇

作 参 本

機密第三〇一〇二五番 三分ノ一三

参 中部太平洋方面艦隊参謀長

参 参謀次長

参 聯合艦隊参謀長 軍令部次長 三一軍参謀長

参 参謀第四五三號返

一 兵力配備

アンガウル 歩兵三大隊 戦車一小隊

ペリリス 歩兵四大隊 師團戦車主力

一八八六八四
一八六九一八六〇

月三△一六七五五五通

海 軍

第十信

384

本島及「コロール」歩兵三大隊半 師團機動部隊（歩兵一大隊）其
ノ他兵站部隊ヲ以テ更ニ三大隊編成中

PPY^{ヤッポ}第四派遣隊へ歩兵三大隊（別ニPPYヨリ派遣ノ一大隊主力到
着ズミ更ニ五月三十日PSヨリ派遣ノ一大隊到着ノ豫定

ニ各方面共野戰配備ヲ繼成シ目下之ガ増強中ナリ

但シ「バラオ」夷本島ハ東北部ノミ水際陣地ヲ繼成「ヤツブ」ハ尙
野戰築城繼成二十日ヲ要ス

三、照部隊 第四派遣隊共彈藥半箇月分繼継「ヤツブ」二箇月其ノ他ハ
八箇月以上集積済

四、海軍關係へ航空兵力ヲ除ク兵器ハ近日裝備ノモノヲ含ム

(4)「バラオ」本島コロール島マラカル島アラカベサン島三十根二〇

〇〇名其ノ他設備隊工員等九九〇〇名

裝備兵器 十五擲砲八 十二擲砲二 十二擲高角砲八 二十五耗

385

機銃三八 十三挺機銃三六

「アイライ」飛行場概成使用可能

(ロ)「ペリリュ」へ「ガドブス」島ヲ含ム一第四五警備隊派遣隊員約

二〇〇名其ノ他設營隊二〇〇〇名

裝備兵器 十二挺高角砲八 二十五挺機銃三六 十三挺機銃四

「ガドブス」飛行場概成使用可能

(ハ)ヤツブ第四六警備隊七四〇名工員其ノ他約千名

裝備兵器 十二挺高角砲四 二十五挺機銃三六

第一飛行場概成使用中。

第十信課

海軍

386

人

0401

五三〇 受領一九四四 譯丁二二〇〇 電一三九四四 作

聯合艦隊 南西方面艦隊
次 長一機動艦隊 三一通・威部隊（南方軍）
七中央方位測定組織各管制所

機密第三〇一〇三五番電

發 南西方面部隊警戒部隊指揮官

宛 參謀長

當部隊會敵ヲ預期スル場合ノ陸兵輸送力左ノ通
青葉約一〇〇〇名鬼怒約七〇〇名大井亦精忠者四七名發生ノ爲今夫
輸送作戦ニ參加不可能第二海上機動隊團（約五五〇〇名）輸送ノ爲
ニハ更ニ戰艦一隻巡洋艦二隻ヲ要ス少數兵力ノ經次輸送ハ最モ不利ナ
ルノミナラス戰艦ヲ送スルヲ以テ突ノ際一舉急速輸送ヲ決行スルコ
ト極メテ肝要ト認ム。

通一八六四一 呂三A（一九五五〇〇〇）二二一 海軍

四十四

局長

課長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

第十課

五三〇

受信二〇一七

丁二〇二五

電一三九四三

作

八五一空

大連第一隊・聯合艦隊司令部・南西方面部隊各隊
八空襲部隊・三空襲部隊・第六空襲部隊・航空機司令部

機密第三〇一〇四七番電

第三基地航空部隊電令作第一五號

八五一部隊現況昭南完備飛行艇全機（一八）偵察機多除夕（ハ速ニ

其ノニ進出ハ機件暇部隊輸送任務ニ從事スルト共ニ哨戒部隊ノ作戰

ニ協力スベシ。

通一八六二〇

呂二A（一九五五〇四）二十一通

海

軍

388

三 第十四軍司令官ハ前項部隊ヲ「ザンボアンガ」ニ於テ第二方面軍ノ
指揮下ニ入ラシムベシ 指揮移轉ノ時役ハ五月三十一日零時トス
三 細部ニ關シテハ總參謀長ヲシテ指示セシム

右ニ基キ總參謀長指示要旨

一 海上機動第二旅團第一次輸送ハ海軍艦艇ノ輸送力ニ應ジ上陸作戦
戦力ヲ甚大ナラシムルモノトシ細部ニ關シテハ第二方面軍第十六
戰隊團ニ於テ協議スルモノトス

二 第十四軍司令官ハ前項部隊所要ノ軍需資材ヲ「ザンボアンガ」及
「ダバオ」ニ於テ交付スルモノトス

三 第三船給送隊長ハ本輸送ヲ機助スルモノトス。

四
十
四

海 軍

391

人事

五三一

受信了

一七六五
二四三〇〇〇

電一四三六〇

本

局長

聯合艦隊司令部・南西方面艦隊司令部・四南遠征隊司令部・十八警備隊

機密第三一一〇〇五番電

發 沼田參謀長

宛 參謀長・參謀長受(勢ハ陣風參謀長威嚇參謀長ニ傳ヘラレ度)
敵ハ飛行場地帯ノ一帯ニ占領困難ナルヲ察知セシ現在既上陸部隊ヲ以
テ現位艦ヲ確保セシメ此ノ間増援ヲ送り「ピアタ」島ノ攻略ヲ企圖ス
ル公算大ナリ「ピアタ」支隊ハ管面ノ敵ヲ各個擊破スベク努力中ナル
モ關係隊海軍部隊諸官モ「ピアタ」支隊ノ迅速ナル各個擊破ニ對シ此
ノ上トモ協力セラルルト共ニ出現ヲ豫想セラルベキ敵機動部隊檢査艦
ヲ二隻ニ對シテ之ヲ海上ニ各個擊破シ得ルノ機生ズベシト判断セラル
ルニ付一九二九一

呂二A(一九五五〇機)廿一連

393

Handwritten marks and numbers at the top right.



五三一

受下始信
二〇八
五二
五〇〇

電〇〇〇四〇

作

聯合艦隊司令部・南西方面艦隊司令部

電報第三一一一五三九番電

發 南方軍總參謀長

通電先 〇五、〇五、〇五（參考次長陣）

電報一電第七一五號

南西方面警戒部隊編制第三〇一〇三五番電關聯

青葉及鬼怒ノミノ機動力ヲ以テシテハ兵力尠少成功ノ算ニ乏シ故ノ

第一方面海上機動部隊ヲ一隊ニ輪送スルノ必要ハ組織ナリ兼テハ戰艦

一隻及巡洋艦二隻ノ増派方時ニ御座候事也（〇五）支援部隊甲斐縣

送一九三八八

自三A（一四九三〇）海軍一連軍



第十信

395